

HSK NPO 法人「文福」ニュース ❀❀❀❀

「障」ちゃん

❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀ NO.208

緊急声明 「全ての人にとって生きることが仕事だ」

NPO 法人文福理事長 八木勝自

先月、7月26日の未明に神奈川県内の知的障害者施設で元職員の植松聖容疑者によって重度障害者が19人刺殺され、その他重軽傷者も合わせると46名に及ぶ事件が起き、各障害者個人や障害者団体、家族、福祉関係者を含む一般市民や社会に言い知れぬショックを与えました。

私はこの事件を振り返ると、植松容疑者は犯行の時、職員を手すりに結束バンドで拘束し、自分の知らない障害者一人一人を犯行の時「この障害者は意志疎通や会話ができるか」と聞いて犯行をしたとのこと。そのことは全く命の選別なのです。

現に、植松容疑者は衆議院議長に宛てた犯行声明で「重度の障害者は、本人も不幸であり、周りに不幸をばらまいているから殺害します」と書いてあったのです。

しかし、それは私たちの障害者運動が昔から言ってきた「どんな障害者も生きることが仕事だ」つまり、「全ての人にとっても生きることが仕事だ」と言っていることに対して全く逆行していることなのです。

—もくじ—

緊急声明	八木勝自	… 1-3	冒頭の一言	… 4	Penko	… 5-6	まっち原稿募集	… 7
DVD 上映会	… 8	ザカイジョ	… 9-11	なぜ、こんな事件が	八木勝自	… 12-14		
運営会議報告	… 15	今後の予定	… 16-17	ありがとう+編集後記	… 18			

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-10-10 日本郵便株式会社

現代社会では効率を重視し、働けることや仕事で多くのお金を得ることが仕事で、植松容疑者もその価値観が強くありありと見える構造となっています。

本来、お金とは全ての人が生きていくためや社会を良くして行くためのもので、お金はその手段や方法であって目的ではないのです。

大体、今の重度障害者が生きているのは医学や社会が発展したからなのです。重度障害者といっても一人一人の障害や状況、しぐさなども違い、例えば寝たきりで意志疎通などができない障害者でも息をしたり、水を飲んだり、排泄をしたりオムツ交換の時に自らお尻を持ち上げたり、眠ることなども立派な生きるための仕事だと私たちは思っているのです。

それに、そう言った個別の重度障害者を見て、一人一人の人が受ける影響は違いますが、植松容疑者や以前の石原東京都知事のように、「この人たちに生きる価値があるのだろうか」と言う人もいれば、「この人たちは色々な面で、現代社会であくせくしている社会や人に対してそんなことは止めておけと言っている」と思う人や「これが良い意味で人間本来の姿だな」と自分の価値観を捉え直したり、色々なことを思ったり考えたりする人がいると思います。

もちろん、重度障害者が生きて行くには医療環境の必要な人もいて地域にはその環境が整っていないこともあります。重度障害者を施設だけに入れていくことが間違いであって、今回の事件が起きてしまったように思います。

重度障害者だって施設ばかりに居ては刺激や人との触れ合いもなく、精神や能力的な成長もしないと思います。

そして、今回の事件でもう一つ、気になることは被害にあった障害者が全員匿名だということです。普通、犯罪被害や災害被害や事故に遭った人の氏名は公開されます。それが今回は公表されず、その公表されない理由は家族などに迷惑がかかるからだそうです。その迷惑とは家族に障害者がいたら例えばその家族は結婚もできなかつたり、就職もできなかつたり、様々な嫌がらせや差別に遭うからで、それは原爆被爆者が被爆に遭ったことを隠したり、部落民が

出身を隠したりハンセン病の人や家族が病名や氏名を隠したりすることと同じだと思います。

しかし、そのことはいじめなどにも共通することで、いじめられる方が悪いのではなく、いじめや差別をする方が悪いのです。そして、こう言った被害にあった障害者を公開しないことで家族が戦わないことが、被害にあった障害者が浮かばれないことだと思うのです。

重度の障害者にとって「生きることが仕事だ」ということは全ての人々にも「生きることが仕事だ」と言えることです。今回の事件を通じて、障害者を受け入れる施設や社会が厳しくなるのではなく、社会や人々が穏やかで和みある社会にして行かなくてはいけないと思うのです。

今回の事件が起きたことにより、各地域で生きている障害者なども怖くて「外に行けない」とか「介護や介助をつけるのは怖い」という障害者もたくさんいますが、今こそ、障害者が積極的に社会参加することがこの事件への反撃であり、殺されたり被害にあった障害者への報い入ることであり、障害者にとっては「全ての人にとって生きることが仕事だ」ということを合言葉にしてこれからの社会で頑張っていきましょう。

各障害者個人及び障害者団体の奮闘を心から NPO 法人文福の理事長として願っています。

尚、今月号の中で八木氏が書いた「なぜ、こんな事件が何故起きてしまったのか」はこの緊急声明を書く前に書いた文章で、今回の事件を違った視点で書いているので合わせてお読み下さい。

出遅れた冒頭の一言

(6)

皆さん、残暑厳しい折、元気に生きてますか？ 8 月中は、世の中じゅうの人がオリンピックだパラリンピックだとノセられていました。ん、あれはサンバにノセられていたのかな？

とにかくやかましいイベントに浮かれているうちは、少しは暑さを忘れることができた幸せ者も、何人かはいるかもしれません。だけど、猛暑日だということをおぼえて金メダルが何個になったとか騒いでいるうちに、熱中症で病院に運ばれた人もいるんじゃないの？

今年の夏は、ユウレイならぬモンスターが、世界中徘徊し始めました。スマホの画面に現れるモンスターではありません。ゲーム会社の作ったモンスターに誘われて、野を越え山越え町越えて、高速道路もなんのその。スマホ画面に魅入られて、モンスターになった人たちがいっぱい現れたようです。皆さん、外出をするときは、くれぐれも周りに気を付けて、スマホ画面に気を取られず、このニュースを持ち歩きましょう。





Penko のおひとりさま 珍道中!! (part19)

母と娘と地域生活

今年に入ってから、母と関わる機会が増えた。

演奏会の介助に来てもらったりしてからだ。

地域で生活するとき、父より反対された。一人で生活することに心配が大きくなったのだろう。しかし今では結果的に良かったと言ってくれている。

先日、母から誘われ、富山に来てくれて「ザ★カイジョ」の合間に一緒に過ごした。すべてではないが、今まで言えなかったことを話した。

地域で生活したくなってきたきっかけはいろいろあった。施設生活に不安や不信感を抱いたことや、地域で生活している人たちと働きたい。などがあるが、まだ明かしていなかったことがあり、紙面を利用して伝えていきたい。

一つはこの先両親が年齢を重ねて、あのまま施設生活を送っていたらどうなっていたのか、ネガティブな方向にしか考えられなかった。妹が家庭を持ち、世話になりたくなかったのと、両親が年齢を重ねていく上で心配かけないよう、安心して生活してほしいという思いがあった。人生を変えたかったのだ。そのことを母に伝えた時

「そう思ってくれたんだ。ありがとう。」

と言われた。そして別の心配があると告げられた。それは

「一人で遺しておくのが心配だから、伴侶を見つけてほしい。」
思いもよらない言葉を聞いて、私はびっくり仰天してしまい、口が開いたままになった。

私が地域で生活するときも、他人のお世話になることに対して抵抗感を持っていた母だったのに。様々な人と関わり、関係も良好だとわかり、安心したのだろう。

両親とも70代にさしかかった。若いときに娘3人を生んで育ててくれた。若さゆえに私を生んだ時にどうしたらよいか父とずっと悩んだそうだ。

この頃は心配性になっているようなので、今まで話せなかったこともどんどん話してお互いの思いを確認していきたいと思う。

今は両親が毎日元気に生活してほしいと願う娘の今一番の願いである。



「まっち」原稿募集

お気づきの方もおられるとは思いますが、先月 7 月にようやく 13 号を発行することができました。これからも引き続き、定期的な発行はしていこうと思っております。

改めて頑張っていこうと思い、今回は原稿募集と共にまっち再開をお知らせしようと思い、ニュースに載せさせていただきました。

今後とも応援の程よろしくお願い致します。

次号についての詳細は下記に。

テーマ 「今ボランティアとは」

締め切り 10 月末

発行 11 月 29 日

メールアドレス macchitti@gmail.com

テーマ以外のものや文章でなく、イラストのみ、なども大丈夫ですので、なにか「まっち」に載せたいというものがあれば、寄稿していただければと思います。原稿は上記のメールアドレスまでよろしくお願い致します。

(吉田健太)



D V D 上映会を行って

河上千鶴子

去る 7 月 1 5 日の夜に、文福事務所で今年度最初の学習会で映画「あん」の上映会を行いました。2 0 人を超える参加者で大盛況でした。

あらすじは……

縁あってどら焼き屋「どら春」の雇われ店長として単調な日々をこなしていた千太郎〈永瀬正敏〉。その店の常連である中学生のワカナ〈内田伽羅〉。ある日、求人募集の貼り紙をみて、そこで働く事を悲願する老女、徳江〈樹木希林〉が現れ、どら焼きの粒あん作りを任せることに、徳江の作った粒あんはあまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛した。しかし、心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく……

徳江さんは、ハンセン病回復者で両手に後遺症があるが、粒あんを美味しく作っていたのに、ハンセン病回復者だという噂が広がって誰もどら焼きを買いに来なくなってしまふ。店長さんは、徳江さんに辞めてとは言えなかったが徳江さんは、そのことを悟って自分から去っていった。ワカナと店長さんが徳江さんのいる療養所〈口ケ地の多摩全生園〉に会いに行く。二回目に行った時には、徳江さんは肺炎で亡くなっていて、親友だった佳子さん〈市原悦子〉からあんを作る時の道具と徳江さんのメッセージを渡された。その後、店長さんは立ち直って屋台でどら焼きを焼いて売り込んでいるところで終わりました。

参加者の中に多摩全生園の近くで生まれ育ったという人がおられて、「これは違う、東村山はこんな差別はしないよ」と言っておられました。

全国にハンセン病療養所が 1 3 か所あります。この口ケ地になった多摩全生園は町の中にあるので、強制隔離や強制断種・強制墮胎の歴史は忘れては

第三郵便物承認 HSK 『『文福』ニュース『障』ちゃん NO,208』通巻 4376 号 2016 年 9 月 1 日発行
ならないと思っています。他の所は、丘の上とか、山の中とか、離れ小島に
建てられているので、まだまだ、こういう偏見と差別はあると思っていま
す。ただ療養所がある県と、無い県では温度差はあると思いました。

この映画を通して、ハンセン病問題だけではなくて、世間の噂〈風潮被害〉の恐ろしさを考えてほしいという問いかけがあると思って観ました。

樹木希林さんの演技がすごく良かったです。

『ザ★カイジヨ』

～今年度第 2 回は、10 月開講！ 是非受講・参加を！～

ザ★カイジヨは、『障害当事者から学ぶ』『現場から学ぶ』を基本とした介助研修で、どんな障害者も地域で生きていける社会にしていきたいと思ってこの研修を行っています。この研修には大きく 2 つの流れがあります。1 つは、昔、障害者が講師を勤めた大学の「人権と福祉」の授業のアンケートで、関心があってもなかなかつきあうきっかけが少なく、どうつきあったらよいかわからないという声が多かったので、まずは出会うこと、関わり、一緒に話したり外出したりする体験の場が必要だと考え企画した介助研修が始まりです。障害者と健常者の交流・相互理解のボランティア研修の流れです。

もう一つは、重度訪問介護のヘルパーとして仕事とする人を障害者自身が養成して、地域生活の要である介助保障を実現していくための研修です。重度訪問介護は、障害者の自立生活運動の中で当事者の要求と実践の中で生まれてきた障害者独自のホームヘルプサービスで、東京都に始まり、今では全国どこでも利用できるサービスです。ホームヘルパーの資格を持っていれば仕事としてできますが、ヘルパーの資格を持っていない人も、この研修によって障害者の生活を支えるヘルパーの資格を取得することができます。

障害のある人と付き合ったことはないけれど関わってみたい方、障害者のヘルパーという仕事に興味のある方、当事者の考えを聞いてみたい方、高校生以上誰でも受講できますので、いろんな方に受講して頂きたいと思います。

2016. 第 2 回 県指定 重度訪問介護従事者養成研修

☆カイン☆ 受講者募集中!

重度訪問介護とは？

地域生活をする、外出をして社会参加をする、常時介助を必要とする障害者に対して、身体介助・外出時の介助・待機（見守り）などを総合的に行う厚労省障害福祉サービスです。障害者の意思・ペースを重視し、介助者の助けを受け障害者の自己決定・自己選択・自己責任を基本とし、障害者が自分自身を育てていくものです。

障害者と一緒に話したり行動する中で、高齢者の介護保険とはまた違った自立を学べる研修です。

【締め切り】 10 月 3 日(月) 定員(各 15 名)に達し次第締め切り

あなたもできる 'はじめの一步'

Let's Try! 基礎コース

【日時】10 月 15 日(土) 9:00~17:00

サンフォルテ 303 号室

10 月 16 日(日) 9:00~17:00

サンフォルテ 303 号室(午後は外出)

【参加費】2,500 円(2 日目実習時昼食代・交通費含む)

医療的ケアや介助が日常的な人の暮らし

Let's Imagine! 追加コース

【日時】10 月 22 日(土) 9:00~18:00

サンフォルテ 303 号室

【参加費】1,500 円



申し込みは次ページを切り取りお使い下さい。カリキュラムは HP にあります。



「なぜ、こんな事件が起きてしまったのか」

NPO 法人文福理事長 八木勝白

神奈川県相模原市の重度知的障害施設の「やまゆり園」で元職員による障害者 19 人の刺殺を含めて、45 名の重軽傷者を含む殺傷事件が起きてしまいました。

私はその日、インターネットで事件を知ると、近くのコンビニへ行き、その記事が載っているスポーツ新聞を含む全国新聞を買ってきたのですが、3 日か 4 日かは、その新聞を同じ障害者として頭がボーとして読むことができませんでした。

その刺殺や重軽傷を負った障害者は、どんなに痛く、怖く、苦しく、悲しかったことか。現に、その事件を受けて施設に駆け付けた消防隊の救急隊員によると、現場は「痛い！」と叫んでいる障害者や「助けて！」と言う障害者や恐怖で叫んでいる障害者も多く、現場は血だらけで凄惨を極めたそうです。

また、この犯人である植松は今年の 2 月に衆議院議長の公邸まで行って、今回の事件を予告する手紙まで渡し、その中で「障害者は生きていても不幸でそれをばらまき、世界や日本の平和のため、障害者を殺します。しかし、それは障害者の安楽死や世界や日本のためであって、心神喪失の無罪として監禁を 2 年として 5 億円を支払ってください。」というとんでもない内容で、その内容を受けて、警察や福祉局や施設では本人の説得や立ち直りもしてほしいと説得していたのですが、本人は考えを曲げず施設を退職して、本人は大麻などをやり、それを見かねた警察や福祉局は措置入院をしたそうです。

その措置入院の病名は主に大麻性精神症や非社会性パーソナリティ症だったそうです。

しかし、その措置入院も 12 日程で終り、終わった理由が、「何であんなこと

私は確かに措置入院しなくてはいけない自分や他人を傷つける人はいますが、それもあるべく、その症状がある程度治まったら短い方が良いと思っています。

けれど、植松が「家族と暮らす」と言ったことの原因で、警察、保健所、県、福祉局などは一人暮らしの場合は定期的に訪問するのですが、「家族と暮らす」と言ったことでノーマークになったそうです。

長々と書きましたが、これから私の本題に入ります。この事件を知ってインターネットを見た時に、植松は「正義のため」にこの事件を行うと言っていて、これを見た私は、なぜか第二次世界大戦末期に日本の若者が駆り出された特攻隊を思い出してしまいました。若者は日本のため、祖国や家族のため、正義のためと思って特攻したのです。そしてこの植松は、大学時代や最近までは、周りからも地域からも好青年だと思われていたようです。それがどうして、去年の 2 月に衆議院議長宛てに「日本や世界平和のため、生きていても周りを不幸にするだけの障害者を安楽死させる。それを実行します。」という風になってしまうのか。

私はそこで何を感じて、どう思ったかという、私は「重度障害者で良かったなあ」と思ったのです。つまり、私は障害者ではなく、健全者として今の時代に生まれ、今の教育の詰め込みや失敗や成功の現実的経験も昔に比べたら経験出来ない教育を受け、今の働けることによる序列と管理社会に放り込まれたら、私も植松犯人みたいになっていたかもしれないと思ったからです。

そのことを、私の最近知り合った医療関係者と話したら、その人は「八木さんみたいな加害者の発想をする人はいないし、各種新聞の見識者のコメントを読んでも、そういった発想は滅多にない」と言われて私は二度びっくりしてしまいました。

私は「どうして、そういった発想がないのだろう。人間は社会的な動物だし、色々なことを見たり聞いたりしていたら、そういう発想にもなるのではない

のかと思ってしまったのです。

もちろん犯人の植松には責任はないとは言いません。現に私のような身体障害者と知的障害者は違うかもしれませんが、優性思想によって同じ障害者が殺されてしまったのです。頭の整理がつかないと同時に「ふざけるな、ばかやろう、ばかやろう」と思います。

しかし、一方では上記に書いたように私も貧困社会や働けることへの序列社会では、ああいうふうになったかもしれないと思うし、植松も社会の圧力や生きにくさで、大麻をやったり、背中に刺青を入れたりして、自由を求めていたのかもしれないけど、結局、社会から作られてきた部分も 6 割以上あるのではないかと、私は思ってしまうのです。

今回の事件で、そういったことを思う人が増えたり、なんらかの行動をすることが、こういった犯罪や中学生や若者によるホームレス襲撃や色々な高齢者、子どもを虐待する事件を防ぐことになるのではないかと考えています。

これまでの社会運動は他人を責めることによって国や社会を告発したりしてきましたが、これからは自分自身が相手の立場になったり、自分を豊かな意味で自分を責めたり捉え返して社会や国を告発することも、必要ではないかと思い、そのことを含めた、これからの運動や活動を作っていきたいと思っています。

障害者施設で多数の障害者を刺殺したり、周りの社会全体をとんでもない思いにさせて植松被告を裁判で死刑にするのではなく、憎ければ憎いほど更生させたいと思う私は、まわりや社会や国から見たら異常なのでしょうか。

運営会議報告 2016. 7. 19

●各部からの報告

【学習会】

・DVD 上映会「あん」を 7 月 15 日に行った。

【派遣】

・市役所 障害福祉課との実務者交渉・・・人材不足について話し合いを 8 月 8 日（月）に行います。内容は介護人材不足の現状と解決について、障害福祉課とも今後協力してもらうことを話します。

・7 月に入院時意思疎通支援事業の利用が有り、県内での制度利用が 3 人目になりました。

【レクリエーション】

・6 月のぱんだの夕べは 15 人くらいの参加があった。

・7 月 30 日ぱんだナイト（6 時開場、21 時終了）場所はフォルツァ総曲輪で行います。

・8 月 1 日に神通川での花火大会を見に行く企画があります。

【障ちゃんニュース】

・今回のニュースに文福会費の納入お願いを入れる。

【まっち】

・発行しました。今後年 3 回を目指していきます。次回テーマは「今ボランティア」締め切りは 10 月末予定。

●事務局

- ・夏の賞与について 8 月 10 日支給。
- ・事務所のパソコンが 1 台調子が悪いので、近々買い替えを行う。

●その他

- ・文福事務所のお盆休みは 8 月 13 日から 16 日です。文福食堂は 16 日お休みです。
- ・7 月 20 日に事務所の大掃除を行う。(今日も事務所の配置換えなどを行う)
- ・聴覚センターでの指点字の研修会のお知らせ。

次回の運営会議は 8 月 23 日（火）14 時から、文福事務所にて行います。



◆今後の予定◆

このコーナーでは、文福と他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願ひします。

◎日・時 9月10(土) 10:00～
場 所 射水小杉太閤山コミュニティーセンター
「緊急事態条項」学習会 富山国際大・彼谷環さん
主 催 9条 平和小杉の会

◎日・時 9月16日〈金〉午後6時半～
場 所 富山西別院にて
ハンセン病訴訟15周年シンポジウム
主 催 「ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山」

◎日・時 9月17日(土) 13:30～
場 所 サンフォルテ 307
「圧殺の海第2章」
参加費 1000円
主 催 ゆいま〜る とやま 沖縄つなぐ会

◎ 日・時 9 月 2 1 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

場 所 サンフォルテ

映画「明日の風」上映とパネルディスカッション
テーマ「より豊かな社会参加へ」

主 催 精神保険医療の在宅促進を考える会富山支部

◎ 日・時 9 月 2 4 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 00 (1 日目)

2 5 日 (日) 9 : 30 ~ 11 : 50 (2 日目)

場 所 サンシップとやま 福祉ホール (1 日目)

障害者の人権におけるバリアフリー交流集会 IN とや

ま

テーマ「国の障害者差別解消法・富山県の県条例スタート！」

サンシップとやま研修室 (2 日目)

障害者の人権におけるバリアフリー交流集会 IN とやま

テーマ「障害を持っている私が地域で生きること」

主 催 第 2 2 回東海北陸車椅子市民集会実行委員

◎ 日・時 9 月 2 5 日 (日) 13 : 30 ~

場 所 サンフォルテ 303

男女賃金差別をともにたたかう会

裁判報告集会・記者会見・総会・交流会

◎ 日・時 9 月 2 8 日 (水) 16 : 00 ~

富山地裁 ガレキ訴訟第 6 回公判 (結審か)



ありがとう & 編集後記コーナー

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

今後もよろしくお願いします。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

7 月の下旬に起きた相模原市の重度障害者施設の殺傷事件については被害者の方の冥福をお祈りいたします。この事件によっていろいろな事で、悪影響が出ないことを願っています。

* 新規会員・継続会員 *

青木 美保子さま ありがとうの家さま 加賀 成美さま 金谷 美子さま
川原 登喜さま 坂 幸夫さま 椎 恵子さま 清水 博史さま 珍部 千鳥さま
富山 正史さま 富山総合福祉研究所さま 中村 薫さま 中島 正浩さま
林 藍子さま 藤田 三四郎さま 松井 三代子さま 丸山 進さま
八木 勝自さま 八ツ橋 晃さま 山本 正子さま 山本 夕起子さま
吉川 行唯さま 吉塚 まり子さま

* カンパ *

河上 千鶴子さま 山本 夕起子さま

* 物品提供 *

大野 哲也さま 寺島 咲希さま 下伏 玲子さま フードバンクさま
★★★★★★★★☆☆(アパッチ)

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

ぶんぷく

編集人：特定非営利活動法人 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3
e-mail:bunpuku@arrow.ocn.ne.jp
HP: http://bunpuku.org/

TEL/FAX (076) 4 4 1 - 6 1 0 6

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。

一九九四年八月四日第三種郵便物承認
H S K 第 三 郵 便 物 認 許 第 一 〇 一 三 一 五 二 二 〇 号